

# 令和2年度 指定管理業務 実績評価シート

作成年月日 令和3年6月8日

部課名 教育委員会文化財課

施設名	瑞楽園
施設の設置目的	弘前市の歴史や文化を伝え、もって市民の教養を高めるため
所在地	弘前市大字宮館字宮館沢26番地2
指定管理者名	有限会社 三浦造園
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日
<b>1 事業計画の実施状況</b> 施設の設置目的を理解し、協定書、管理業務基準書及び事業計画書に基づいて、概ね計画通りに実施されている。また、利用者が安心して施設を利用できるよう、施設内外の環境美化や維持管理に努めるなど、事業計画に基づいた適正な管理運営を実施している。	
<b>2 自主事業の実施状況</b> 新型コロナウイルスの影響もあり、予定していた事業が一部中止となったものの、参加者に好評だった事業を引き続き実施するなどし、市民サービスの向上につながるよう創意・工夫を重ねて取り組んでいる。 ・令和2年9月12日「つがるの昔っこ」 ・令和2年10月1日「十五夜祭り めぐみさんによるギター&つがるの昔っこ」 ・令和2年10月1・2・3日「十五夜を楽しむ会」 ・令和2年10月24・25日「東北文化の日」協賛・花苗プレゼント	
<b>3 市民サービス向上のための取組状況</b> 庭園に関する説明・案内が出来るよう、管理人を対象に定期的に研修や緊急時の避難訓練を実施している。 また、新型コロナウイルス感染症対策として、念入りな清掃やこまめな消毒、ソーシャルディスタンスに気を付けながら、来園者と適切なコミュニケーションを図るよう努めている。	
<b>4 市民ニーズの把握の実施状況</b> 指定管理業務開始時から継続してアンケート調査を実施しており、利用者ニーズの把握に努め、アンケート結果を事業に反映させたり、市民サービス向上につなげている。	
<b>5 施設の利用状況（利用者数、稼働率など）</b> 令和2年度の入園者数は、1,263人となっており、新型コロナウイルス感染症拡散防止のための緊急事態宣言を受け4月20日から5月17日まで休館していたこと等により大幅に減少している。 (参考:令和元年度 入園者数2,062人)	

## 6 指定管理業務の収支状況

計画的で安定した予算執行に努めており、適正に行われている。  
年間の収支決算としてはほぼ均衡したものとなっている。

## 7 実地調査の結果

施設が適切に管理・運営されており、業務も誠実に遂行されていることを確認した。  
また、個人情報の管理及び収支に係る帳票等も適正に整理・保管されている。

## 8 成果指標の達成度

入園者数:目標 2,011人(H27~H29の3年間の入園者の平均値)  
令和2年度実績:1,236人 達成度 61.46%

## 9 評価

### (1) 指定管理者の自己評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	B	コロナ対策で、指定事業などの開催日変更がなかなか決定できず、広報の時間が短くなってしまった。自主事業も計画とはだいぶ変更や中止となった。そんな中でも、市の広報に掲載してもらったり、施設内外にパンフレット置き、広報活動した。季節の飾り付けなどに気を配った。	指定事業・自主事業等は、さらに早めの計画・広報活動の実施をする。季節的行事をもっと取り入れ実施する。開園時間を変動せず通年で固定し開園期間も毎年一定することで来園者が混乱しないようにしていきたい。
施設の管理	A	館内の掃除は、行き届いていて常に清潔感が出るようになったと思う。展示物が、著しく老朽化しているものは、今年度もさらに整理し、展示物の方法も少しずつ変えて変化を出していきたい。	庭園の枯流れの乱杭の修繕を実施して、来園者からは、「だいぶ違いましたね」といわれる。庭全体が締まって見えるようになった。「頭位松」の剪定を。次年度ぜひ実施したい。
経理の状況	B	収支はだいたい予算どおりだったと思う。自主事業が今年もまた少し経費がかかってしまった。	経費の区分を明確にし、収支状況を常に把握し、経費削減に努める。赤字にならない自主事業を実施する。
団体の財務状況	B	管理可能だと思います。	契約の不履行が無いよう経営の基盤を固め努力します。

(2) 市の指定管理者に対する評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数は減少しているが、協定書・基準所等の内容に基づき、概ね適正に実施している。	コロナ渦であるものの、引き続き利用者増を図るため、魅力ある自主事業の展開に期待する。
施設の管理	A	利用者の安全を第一に施設内外の環境整備や維持管理を徹底しており、また個人情報や文書等の管理も適切に管理している。	今後も適正な管理に努めていただく。
経理の状況	B	収支状況、経費の削減、帳簿等の整備・保管については、概ね適正に実施している。	今後も適正な経理に努めていただく。
団体の財務状況	B	安定した経理的基盤を有している。	今後も安定した財務状況を維持していただく。

【評価の視点】

評価区分	評価の視点
施設の運営	法令等の遵守、使用許可、市の指定事業、付随業務、自主事業、公平性、職員配置・研修、開館時間・休館日、職員の接遇、利用者ニーズの把握・反映、事業計画の実施状況、業務報告など
施設の管理	利用者の安全対策、施設・設備の維持管理、個人情報の管理、文書等の管理、備品等の管理、緊急時対策、災害対策など
経理の状況	帳票等の整備、経理の区分、収支状況、経費の削減、帳簿等の保管状況など
団体の財務状況	安定的な施設の管理が可能な経理的基盤を有しているか

【評価の基準】

A	協定書・基準書等の内容を超える管理運営が行われたと判断できるもの（適正な管理運営に加えて、更なる取組みや成果があると評価できるもの）
B	協定書・基準書等の内容を概ね適正に実施していると判断できるもの（軽微な改善点はあったが、速やかに改善されているもの）
C	協定書等の内容に対して改善点はあったが、適切な改善策が講じられているもの
D	協定書等の内容に対して不履行があるものや、改善がなされていないものがあるもの

※「団体の財務状況」の評価基準□

<b>B</b>	問題がない
<b>C</b>	今後に注意を要する
<b>D</b>	早急な改善を要する